

2014 年度春学期 授 業 評 価 報 告

科 目 区 分 名	人間生活学科	科 目
-----------	--------	-----

アンケート結果、今後の改善、その他特記事項（授業方法の工夫等）についての総評

1. アンケート結果について

結果の数値を一覧表にした。一応の目安として年度ごとに全学の結果に比し評点平均が 0.25 点（5 点満点の 5%）以上、DWCLA10 選択率で 5%以上の差がみられた項目に網がけをした。評点平均値においては、昨年と傾向が類似しており、変化はみられなかった。DWCLA10 選択率では、項目ごとの傾向は類似していたが、昨年より低下した項目もみられ、改善の必要があると思われた。

2013年度	評点平均値								
質問項目	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9
	理解	意欲	好奇心	学習時間	聞きやすさ	工夫	シラバス	配慮	レベル
全学	4.11	4.09	4.02	0.61	4.11	4.03	4.19	4.08	3.55
人間生活	4.23	4.13	4.14	0.47	4.09	4.12	4.23	4.11	3.47

2014年度	評点平均値								
質問項目	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9
	理解	意欲	好奇心	学習時間	聞きやすさ	工夫	シラバス	配慮	レベル
全学	4.10	4.10	4.02	0.65	4.08	4.02	4.21	4.08	3.56
人間生活	4.16	4.05	4.10	0.62	4.00	4.02	4.20	4.06	3.46

2013年度	DWCLA10選択率(%)									
質問項目	分析力	思考力	創造力	プレゼンテーション	コミュニケーション	リーダーシップ	思いやる力	変化対応	自己管理	自己実現
全学	29.8	54.5	19.1	13.1	20.3	2.8	8.3	7.9	8.9	9.9
人間生活	32.8	53.3	23.3	11.6	15.3	1.2	15.2	5.5	9.7	8.5

2014年度	DWCLA10選択率(%)									
質問項目	分析力	思考力	創造力	プレゼンテーション	コミュニケーション	リーダーシップ	思いやる力	変化対応	自己管理	自己実現
全学	30.7	54.6	18.0	13.8	19.8	2.7	7.7	7.5	9.5	9.4
人間生活	33.2	57.9	20.3	7.6	8.3	0.4	11.0	5.4	11.9	6.3

2. 今後の改善点、その他

学習時間について全学平均とほぼ同等の値まで改善していた。学科としての取り組みによる改善の兆しと言えるかも知れない。それ以外の項目においてはほぼ全学平均と同等で、比較的高い値を示していることから、今後も現状を維持することが大切であると考えられた。

DWCLA10 についてみると、昨年の「コミュニケーション力」に続き「プレゼンテーション力」においても全学平均より低い結果であった。演習科目でも、教員によってかなり異なっており、グループワークを多く取り入れているかどうかで違いが出ているのではないかと推測された。また、「思いやる力」では昨年よりやや低下してしまった。この理由は、「ボランティア・NPO 活動論」における選択率が 50.0%に低下したことが影響していると思われた。児童関係や福祉関係、自然環境に関する科目では高い傾向を示し、人間生活学科の教育目標が「思いやる力」を育む内容を重要な要素としていると思われることから、今後も維持していきたい項目である。

上記の枠内に収まる範囲内でご記入ください。

教育・研究推進センター